

レブンアツモリソウの概要

1. 分類

被子植物 単子葉類 ラン科

レブンアツモリソウ

Cypripedium macranthos var. *rebunense*

絶滅危惧 IB 類（環境省レッドリスト 2012）



2. 形態的特徴及び生物学的安全性

- ・ 多年草の地生ランで、5月下旬～6月下旬に淡黄白（クリーム）色の大きく優美な花をつける。
- ・ 発芽及び生育には *Tsulasnella* 属の共生菌が関係していると考えられている。
- ・ 礼文島沿岸地域の適湿～やや乾性の明るい草原を主な生育地としている。
- ・ 日本固有種

3. 分布状況

北海道礼文島のみ分布する。

4. 現在の生育個体数

- ・ 開花個体数は 250 未満（レッドデータブック 2000 年）。
- ・ 自生地以外では礼文町高山植物培養センターにおいて、無菌培養株個体約 1 万株が栽培されており、共生菌培養株の栽培にも取り組んでいる。

5. 生育を脅かす要因

- ・ 自生地でササ、高茎草本等が繁茂し、その被陰により本種が衰退。
- ・ 治山等により表土の攪乱機会が減少することで、新たな発生が起こりにくくなってきている。
- ・ 盗掘
- ・ 近縁種であるカラフトアツモリソウとの交雑が懸念されている。

6. 保護増殖事業の概要及びその効果

- ・ 平成 6 年国内希少野生動植物種に指定、平成 8 年保護増殖事業計画（農林水産省、環境省）と共同策定。
- ・ 群生地の一部（船泊地区 1.7ha、鉄府地区 4.6ha）を環境省所管地として管理。
- ・ 関係機関が連携した巡視により盗掘件数は激減。
- ・ 環境省所管地に永久コドラートを設置し、個体数の変動をモニタリングするとともに、ササの刈払いなどの生育環境改善手法の試験を実施。

- ・今後の取り組みの方向性を示すロードマップを策定。
- ・群生地については、立入防止柵の設置、監視カメラの設置、巡視を実施。
- ・町民向けの学習交流会を開催する等、普及啓発を実施。礼文町では無菌培養のほか共生菌による人工繁殖等を実施。

7. 他法令等による保護

「レブンアツモリソウ群生地」及び「礼文島桃岩付近一帯の野生植物」が北海道の天然記念物として指定されている。